



多摩湖一周ウォーキング

(2016. 11. 26)

新年度を迎えて

支部長 粕谷 彌太郎 (昭28政経)

新年度を迎え、校友の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

当地域支部は昨年で発足以来五年目を迎えました。毎月役員会・懇親会には会員皆様のご参加を頂き、地域社会の相互交流と地域のお役に立つ活動を実施して参りました。

文・武の明治にふさわしい活動をしています。

俳人石田波郷が清瀬で療養生活を送ったことから、その功績を称え市を挙げた「石田波郷俳句大会」は小学生から成人まで、全国から多数の応募があり、「俳句の街清瀬」として定着してきました。当支部会員も実行委員会のメンバーとして活躍しております。そして当支部の『紫紺句会』も会員以外の方の参加もあり、毎月定例行事として定着、参加者が増えております。

一方、「多摩湖一周ウォーキング」を毎年実施、参加人数も増えております。また、年二回開催の麻雀大会は市民の皆様と一緒に楽しみ、毎月の役員会・懇親会後の誕生会も交流と親睦を深める集いです。

多摩支部行事には六大学野球、ラグビー、箱根駅伝等の応援・観戦があります。また、「清瀬の自然を守る会」主催の探鳥会、自然観察会にも参加等、市民団体と交流、近隣地域支部主催行事の参加等活発に活動しております。今後の課題として、女性の参加、新会員の加入促進、若手会員登用等、重要な課題に取り組んで参りたいと思っております。昨年、五周年特別企画で明大グリークラブ・同OB合唱団「駿河台倶楽部」を迎え、さらに「清瀬第九合唱団」「清瀬第十小学校合唱団」の賛助出演によるコンサート成功の余韻をもって新年度も校友相互の絆を深めて参りたいと祈願しております。

役員、会員各位のご協力とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

平成二十八年年度の活動を振り返って

幹事長 和田 人男(昭33法)

高齢になると、時間が過ぎ去るのが早く感じます。平成二十八年年度の定時総会が終わったのも昨日のように思っていました。

平成二十九年年度の定時総会もすぐそこまできています。そこで、平成二十八年年度の活動を振り返ってみました。定時総会で、十五項目の事業を設定、活動に向けて一年間走ってきました。

まず、定形的な事業活動は従来と同様に進めてきましたが、特に定例役員会については終了後の懇親会が役員相互の親睦を深める重要な活動だったと思っています。

平成二十八年年度の目玉は、地域支部設立五周年記念コンサートの開催でした。平成二十七年年度の後半から実行委員会を立ち上げ会議を重ねるとともに、外部との折衝資金確保と多忙を強いられたところです。その努力の甲斐あって、記念コンサートは大成功でした。これもひとえに実行委員は勿論、役員一同の努力と一致団結した取り組みがもたらしたものと感謝しております。

平成二十九年年度の事業活動も五周年記念コンサートと同じように役員、校友が一同団結して実施していきますよう。

平成二十九年年度定時総会の開催について

幹事長 和田 人男(昭33法)

定時総会を左記のとおり開催いたします。

日時 平成二十九年五月十三日(土)

総会 午後一時三十分より

懇親会 午後三時三十分より五時三十分

会場 総会 市生涯学習センター六階

懇親会 清瀬駅南口徒歩一分「魚久」

校友会清瀬地域支部設立準備は、平成二十三年七月頃からはじまりました。当初は八名の発起人で、多摩支部の組織担当者の指導をうけながら試行錯誤で取り組んで地域支部設立準備総会にまでたどりつきました。校友会がここまで活動できる体制ができたのも役員、会員の「ご支援」ご協力の賜物です。

平成二十九年年度は、会則により役員改選の年です。事業計画(案)、予算(案)は新体制で検討し、「ご提案」することになりました。計画には会員の「ご意見」ご要望を反映できるようにします。

清瀬地域支部総会並びに懇親会には、是非校友の皆様のご参加をお待ちしております。

会の運営と会員募集のお願い

組織部長 島崎 光(昭31商)

清瀬地域支部は設立五周年を迎え、記念行事コンサートも盛況裡に終了しました。

次なる十周年に向けて、今年には役員の改選も実施されます。引き続き魅力ある会としての活動と会員の増加を計っていくため、役員の増員を提案したいと思っております。参加可能な会員は和田幹事長までお申し出ください。

(特に七十歳以下の方、女性大歓迎です) 今後の推進課題

一、会員募集 百名以上を目標とする。
清瀬在住の卒業生四百二十余名

(内女性八十名)

(会員数八十三名 女性七名)

二、支部活動の充実

①クラブ活動(句会、麻雀大会等)

②地域社会との交流

③各地域支部との交流

④広報活動(会報、ブログ発信、市報の記事掲載)

皆様の「ご意見」をお寄せください。

第四回多摩湖一周ウォーキング

浅井 廣(昭53文院)

昨年十一月二十六日、第四回多摩湖一周ウォーキングが実施されました。

当日は青天に恵まれ絶好のウォーキング日和でした。小学校三年生から八十歳の高齢者まで、二十三名の参加者が元気にスタートしました。

清瀬市民はもちろんのこと東村山、国分寺市の方々も参加して頂きました。歩きながら皆さん風景を楽しみ、雑談や近況等にすぐ仲良しになりました。

そして、最高の絶景地である堤防での昼食時は楽しく和やかな雰囲気になりました。

湖面が太陽の光に輝き、西武ドーム、西武遊園地、そして遠景には東村山の街並みが一望でき、歓声もあがりました。

そして四時間三十分余りで全行程を終了し、完歩賞が一人一人に手渡され拍手で祝福されると笑顔笑顔の参加者の充実感が伝わってきました。

来年はもっと多くの参加者で楽しみたいと思います。



晩秋の多摩湖畔を元気一杯で歩く皆さん

「第七回麻雀大会」は今井さん優勝

六田 作道 (昭38政経)

市民の方と明大校友会の交流を目的とした第七回麻雀大会が二月二十八日清瀬駅前朱雀荘「たんぼぼ」で行われました。

過去と同じルールで、四卓十六名(清瀬支部六名、国分寺支部一名、市民九名)が参加し六回戦を戦いました。

優勝は校友会の今井さん、コンスタントの成績で勝利されました。校友会からの優勝者は久しぶりの快挙です。

他の校友会員は、「昔取ったきねづか」とばかりの意気込みでしたが、日頃の実戦豊富な市民の方の成績が良かったようです。一喜一憂の場面を市民の方々と共有し、また、頭と指を動かしかけ防止となる貴重な一日となりました。

当然、終了後の祝杯で盛り上がりました。



麻雀は楽し!

盛り上った忘年会

西尾 修一 (昭44政経)

十二月十一日毎月開催の校友会地域支部役員会が午後一時三十分よりアミューホールで行われました。

その後、三時三十分より南口の「魚久」二階へ場所を移し忘年会を開催いたしました。

男性では萩原耕一さん女性では斎藤千代子さんの参加を得て、総勢二十一名の会合となりました。

明大校旗をバックに集合写真を撮影し、福島幹事の進行で約二時間の宴会となりました。五周年記念コンサート等の開催もあり年間の反省としては大変中身の濃い内容でした。原則自由参加の会なのでこれからもより多くの

方々の出席を促していきたいと思えます。終了後は近くの喫茶店「梓」にてこだわりの珈琲で一息ついてその後はまた数名でスナックでのカラオケ大会となりお互いの親睦を深めた一日でした。



プレープレー明治! 福田さん

探鳥会に参加しました

今井 康之 (昭32経営)

二月四日土曜日、「第三十五回清瀬を知り自然を学ぶ金山区探鳥会」に参加しました。私の家から二十分くらいあれば集合場所を目指して歩きました。ゆとりを持ったつもりでしたが思ったより時間が掛かりぎりぎりの到着となりました。受付を済まし参加費を納め、資料を頂き出発を待つ間の校友会の仲間との歓談も楽しみのひとつでした。

いよいよ出発、参加者四十五名を三グループに分けて私達は第一グループです。コースは公園を時計の反対に回ると説明があり、歩き始めてすぐに鳥の声を聞いて驚がいますね、鳴き声で鳥の名前が分かるのに驚き、周りを見ても姿が見えず、でも驚は私も知っている鳥です。左に回って柳瀬川に出ると河原にセキレイが、あれはハクセキレイあそこはセグロセキレイそれからあそこにも



皆さん来年も宜しく!

キセキレイと双眼鏡の方向転換が忙しく、私の思い通りに観れないものです。池をひとまわり、川の護岸の石垣に白く見えるのはカワセミの止まり木ですと聞き、その止まり木に休んでいるカワセミを望遠鏡で見せてもらいました。カワセミの嘴の下が赤いのは雌です。今いるのは雌ですね、と教えていただきました。金山橋に戻ってきた時かなりの数の鳥の群アトリですよ。今回冬鳥としてシベリア方面から飛来したアトリは数年ぶりに清瀬の金山公園に飛んできたそうです。

調節池に着いた時に池の中の茂みに驚が、アオサギ、とコサギ、ダイサギ、ゴイサギと教わりました。後から来た第二グループの人からシベリアアオジが居ますよと聞き、急いで戻りました。今日だから見ることが出来たとても貴重な野鳥で一生に一度見ることが出来ないかもしれない程飛来することのなかった清瀬ではめったに見られない鳥との説明を聞きました。

初めての参加でとても楽しい探鳥会でした。また参加したい思いです。今回は明大校友会清瀬地域支部からは七名が参加されました。お世話くださった皆様有難うございました。



参加された校友の皆さん



「アトリ」



「シベリアアオジ」

わが故郷「越後長岡」

齋藤 強 (昭38工)

私が生まれ育った生家は信濃川に沿ったポプラ並木の道路わきに有りました。

悠々と西に流れる信濃川、東には東山連峰が連なり、冬には弥彦おろしの雪が舞い、夏には信濃川で泳ぎ、魚と戯れる毎日でした。

長岡は「山本五十六連合艦隊司令長官」の出身地と言う事で連日の空襲に晒された思いが幼い記憶として残って居ります。戦災よりの復興の象徴として八月一日〜三日まで長岡祭りが開催され



記念館の山本五十六銅像

日まで長岡祭りが開催され一躍その花火が注目の的となり、ハワイとも姉妹都市となり、毎年長岡の花火がハワイで打ち上げられております。

私の少年時代(高校卒業まで)は長岡には花火以外は何も無く、「美空ひばり」高校三年生」などの歌がラジオから流れてくるだけの時代でした。

今帰郷すると隔世の感を感じえません。

「故郷は遠きに有りて想うもの!」



長岡の花火
豪華絢爛フェニックス



出生地に立つ良寛堂

りますが、私にとつては夢のまた夢です。再度、申しあげます。

「故郷は遠きに有りて想うもの!」



エッセイ

「俳句ノススメ」

大山 恭子 (昭45文)

毎月第三日曜日に校友の皆さんと楽しんでいる『紫紺句会』も、今年で四年目を迎える。会員数は現在二十名。毎回、出席率もよく、清瀬市駅前アミューの講座室はわいわいがやがやの盛況ぶりである。

句会発足のきっかけは校友の榎谷榮吾さんからの誘いであった。榎谷さんは私の夫が主宰をしていた『隼』俳句会の会員であり、夫が提唱した「清瀬市石田波郷俳句大会」の実行委員もしていた。その夫が急逝し私が主宰を継承することになった。

夫の存命中、「明治大学は波郷の母校なのだから、明大校友会の皆さんにも波郷大会を応援して欲しい」と常に言われていたこともあり、また、明大校友会清瀬地域支部も発足して間もない頃でさまざまな文化活動を模索し

今は「河井継之助記念館」

「山本五十六記念館」

「良寛堂」

「米百俵の小林寅三郎」

「東洋大学創設者 井上 円了」

「詩人堀口大宇」

「直江兼続」

現代では桜井よし子等々著名な方々を輩出してお

ていた時期でもあったことで、話ほとんどん拍子でまとまった。会員の佐藤房夫さんには波郷大会実行委員を引き受けていただくことにもなったし、清瀬市の小、中学校を対象にした「俳句出前授業」では、句会の皆さんに子供たちへの俳句指導もしていただいている。

俳句は紙とペンさえあれば誰にでもできる趣味。俳句を始めると、今まで何気なく眺めていた身の周りが百八十度転回して、日々の生活に感動が生まれる。日本の自然や四季の素晴らしさを再発見できる。俳句は独りよがりやの文芸ではなく、俳友を大切に、句会を通じて連衆との俳縁が生まれる。

句会には室町時代から続く「連歌の会」の「座」の精神が引き継がれている。茶室も「茶室に入れれば殿さまも町人もない」と言われるが句会もその通りである。句会場に入れば、男女も年齢も職業も過去の栄光(?)も関係ない。勝負は句の良し悪しだけ。だから句会では苗字さえ無視し「太郎さん」「花子さん」と名前で呼ぶことになつている。

「俳句ハ人ノ上ニ人ヲ作ラズ」

マタ 人ノ下ニ人ヲ作ラズ」

皆さんも一緒にいかが?



大山さん
(俳号 細見道子)

「紫紺句会」

毎月、第3日曜日
午後1時～
清瀬駅前アミュー6階で
開催しています。



「紫紺句会」の様子

特別寄稿

念願のオーロラ鑑賞のアイスランドの旅

福島 良子(福島寛会員夫人)

若いころから、いつかはオーロラをこの目で見たいと思っていました。最近テレビなど旅の番組に、オーロラがよく取り上げられるようになると、見たいという気持ちが高まり、一月二十四日からオーロラ鑑賞八日間ツアーに参加してきました。

アイスランドはイギリスとグリーンランドとの間の島で島全体に火山が多く暖流が流れており、天気にも恵まれたせいか、思った程寒さは感じられませんでした。羽田〜ロンドン〜ケフラビーク(アイスランド)とかなり長旅となりましたが、初日からオーロラ鑑賞が出来ると期待が膨らみ疲れはあまり感じられませんでした。

しかし一日目、二日目は厚い雲で残念ながらオーロラは見られず、三日目の晩は満天の星、北の空は天の川が大きく流れ、カシオペア座、北斗七星、北極星、オリオン座が輝き、今晩こそはと皆さん夕食後は庭に出て空を見つめていました。十時ごろになり山肌に白い雲状のものが現れ、ファインダーをのぞくと緑のオーロラ状のものが見え、だんだん広がりも見えてきたが、肉眼では白い雲やもや状に見える、肉眼では色はつきり見えないうもどかしさが募ってくるのです。夜半の十時半を過ぎると、皆さん部屋に戻ってしまい、私も部屋に戻ったものの、窓辺ですっと北の空を見上げていました。すると一時過ぎ緑色が窓の外に映り大急ぎで外に出ると、緑色



アイスランドは何処? ..



オーロラ感動の天体ショー

揺れるたびに、歓声を上げカメラのシャッターを切る。カメラでは紫色や、薄赤の色も見えて大興奮、あつという間の一時間でした。でもこの天体ショーを満喫できたのは「オーロラを見たい」という執念の持ち主の六人だけで、同じツアーの残り十三名は寝込んでしまい見られず、とても残念がっていました。結局最終日まで色付きのオーロラは二度と現れませんでした。あの一時間におけるオーロラの天体ショーは、目に焼き付いています。

のオーロラがたなびくように現れ始めてきました。十一時半から感動の天体ショーの始まりでした。西の空からふあつと緑のカーテンが現れたかと思うとひらひらと揺らめいて大きく広がり、目を奪われていて、東の空からもオーロラが広がりカシオペア座を挟み込む。満天の星空にオーロラの緑のカーテンの



地球の割れ目「ギャウ」を歩く



迫力満点のグトルフォスの滝



高さ20mのストロククル間欠泉



露天風呂ブルーラグーン

さて、アイスランドの観光ですが、特に印象に残ったものは世界遺産になっている、地球の割れ目「ギャウ」の見学と、その割れ目の道を歩いたこと。一年で二センチ動いているとのこと、「地球は生きています」を実感です。迫力満点のグトルフォスの滝は十七歳の少女がダム建設の計画を自分の身を投げるといふ命を懸けて反対し、ダム建設を阻止したといわれています。滝の見学場所には彼女の碑が建てられていました。彼女のおかげで、今、私たちはこの雄大な滝を見ることが出来、同じ自然保護の活動をしている私には胸にぐつとくるものがありました。

またストロククル間欠泉の見学ではドンという音と共に大きな蒸気の柱に目を奪われました。

ヨーロッパ最大級のヴァトナヨークトル氷河では間近まで氷河に近づくことが出来、ヨークルサルロン氷河湖に流れ込んだ氷の塊の美しい色の素晴らしさも脳裏に焼き付いています。そして世界最大級の露天風呂ブルーラグーンの入浴体験は、水着を着ての入浴ですが、顔に泥パックをしたお互いの顔を見て大笑いし、一気に同じ旅行者同士の触れ合いが更に深まりました。車窓からの風景も素晴らしく、アイスランドの旅は私にとって大満足でした。

(もっと沢山の写真お見せできず残念です。広報部)

ロートリークラブ「あけぼの」

丸山 隆 (昭40経営)

「おはよう」元気な声がこだまします。
今年初めての料理教室の始まりです。

先月一月は休みなので久しぶりの料理教室です。
森田先生も、久しぶりに元気にお見えになりました。
新しい年が始まります。

「ロートリークラブあけぼの」は清瀬老人クラブ連合会に所属し「男の料理教室」を母体にし、三十五名の会員を有し、会員相互の親睦はもとより、社会福祉協議会及び清瀬市が主催する社会福祉活動に料理を通して参画しております。

例えば、昨年は「わかば会のわいわいフェスタバル」で、やきそば、やきとり、青年会議所J.Cの小学生「わんぱく相撲」では、かき氷、社会福祉協議会の「ふれあい祭り」では、とん汁、おでん、の提供及び販売を通して地域社会の人々と交流を図っています。

その他、学習活動として座禅会(田福寺)、郷土博物館主催の出前講座(清瀬の歴史)、気象センターの見学、全生園資料館での勉強会等々。健康増進のため、ハイキングを、その後に温泉につかり親睦を深めています。

今回、昨年十一月の明大校友会清瀬地域支部創立五周年記念のコンサートに「あけぼの」の活動趣旨の大きな柱である「友愛活動」として参加、協力し、無事終えることができ、今後の活動の大きな自信となりました。

そして今年度も、活動範囲を広げるべく皆で知恵を絞っておりますが、一番の悩みは会員数の維持です。五年後を見据えて、どのように会を続けていくか、また会員を増やすか大きな問題です。

今後、共に地域に根差した活動をしていけたら・・・と思っております。

校友のみなさん一緒に料理を作りませんか。
中清戸の「ひまわり」でお待ちしております。



今日の献立は？



食器洗いも大切！丸山さん

紫紺句会活動報告

榎谷 榮吾 (昭46法)

第三十二回紫紺句会は春の季語を用いた俳句を三句投句して三月十九日に開催されました。

句会発足後、まもなく三年になり毎回三句投句していただきますから、会員の皆さんも句に近い俳句を紫紺句会に披露したことになります。細見道子先生(校友)の的確な添削と指導もあって、みんなかなり上達しているように思います。会員数は現在二十名で、句会においてはそれぞれ個性的な俳句を投句しているように思います。毎回ほとんどの会員が参加して楽しい句会になっています。

先生の添削や講評に一喜一憂しつつ、句会後の反省会はお酒の力も加わって大変盛り上がり、句会のとくに言えなかった句評が飛び交い合評句会の会場になった感があります。俳句の会話をしているひとは知的な時間を過ごしているように思います。これはきっと頭脳の老化防止に有効なんだと実感する次第です。

昨年の石田波郷俳句大会では紫紺句会会員の入選は全く残念な結果でした。今年の第九回石田波郷俳句大会ではぜひ入選者が出て、句会がますます刺激のある会になつてほしいと願っています。

なお、会報掲載の紫紺俳壇を鑑賞していただくほか「清瀬紫紺ネットブログ」には、毎月の紫紺句会の様子が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

石田波郷俳句大会について

榎谷 榮吾 (昭46法)

昨年十月三十日(日)に開催された第八回石田波郷俳句大会は、我が校友会も協力して盛大に開催されました。午前にジュニアの部の表彰式、午後に俳句結社「鷹」の主幹小川軽舟先生の「波郷と馬酔木」という演題での講演、一般の部及び新人賞の表彰式が行われました。夕方からの懇親会では受賞者や他の句会の人たちと交流でき、また一緒に当日の運営に協力した清瀬稲門会の皆さんとも交流できて有意義な時間となりました。



小川軽舟先生を囲んで校友の皆さん



ジュニア部門表彰式

今年の第九回大会は十月二十九日(日)に清瀬けやきホールで開催されます。

今年も主催者である清瀬市石田波郷俳句大会実行委員会に大山恭子(俳号細見道子)さんが副会長、佐藤房夫さんと私が委員として参加して大会の準備にあたります。更に実行委員会主催のあぢさゐ吟行句会(六月中下旬)、小中学校への俳句出前授業(五月中旬～七月中旬)、応募の俳句のパソコン入力作業(七月～九月)、大会当日の運

営などに校友の皆さんに協力していただきます。我が校友会が清瀬稲門会と共にこの大会の強力な支援グループとして実行委員会から期待されています。

また、この事業の運営には一般の部の投句料（二句につき千円）が大きな財源となっています。昨年の応募数は二千三百句あまりですが、校友会の紫紺句会会員から七十句ほどの応募があり、この大会に大きく貢献したと思います。今年の大会にも紫紺句会はじめ校友の多くの投句をお願いしたいと思います。

この大会がいつまでも続くように校友会としても協力していききたいと思っておりますので、今後とも皆さんのご支援をお願いいたします。

「紫紺俳壇」



◎紫紺句会作品集

- 鮫鱈鍋漢に残る箸の癖 穴田 作道
- 元旦や阿形吽形浮き上がる 粕川 偉三男
- 春一番雨天手製の杖強し 粕谷 彌太郎
- 豆柿や観音様の御座す里 齊藤 強
- 秋深む妻の読書と子のスマホ 佐藤 房夫
- 雪降りて近く聞ゆる列車音 島崎 光
- 寒の水からだふるはす江戸切子 中西 宣二
- 朱印帳片手に巡る福詣で 中村 曠
- トランプを切る手悴み儘ならず 西尾 修一
- みちのくのパンダ絵映ゆる稲田かな 福島 寛

演奏会 四谷便り

粕川 偉三男 (昭48政経)

- 牙え渡る冬青空やクレーン伸び 福田 信夫
- 子規仰ぎ糸瓜を仰ぐ子規の庵 榎谷 榮吾
- 雪たるま丘の上まで登りけり 松本 幹司
- 小春日やはいはい童芝のうえ 丸山 隆
- 癒される桜花の命短かけり 和田 人男

昨年五周年コンサートに出演したOB会合唱団「駿河台倶楽部」のコンサートが来たる七月二十一日(土) 四谷の紀尾井ホールで開催されます。

このホールはクラシックの殿堂として格調の高いホールです。真夏の午後のひと時を素敵なホールで男声合唱を楽しまれてはいかがでしょうか。

終演後はニューオータニ、昨年グラントオープンしたガーデンテラス東京でディナーは如何ですか。または四ツ谷駅に戻って庶民的な「しんみち通り」「三栄通り」さらに歩けば「荒木町」も健在です。飲兵衛の聖地ですが聖地と云えば昨年ブレイクしたアニメ「君の名は。」に登場した「須賀神社」も近くです。偶然とは思えないもので福島会員の卒業された四谷第四小学校は中村会員の奥様と同窓との事です。チケットご希望の方は粕川までお申し出ください。



「駿河台倶楽部」男声合唱団

チャレンジしよう！

詰将棋(五手詰)



詰将棋解答

- 2四桂 同 金
- 3二飛成 同 馬
- 1二金までの5手詰

告知板

鳥取県中部地震義捐金

昨年十月二十一日に鳥取県で発生した鳥取県中部地震義捐金を「設立五周年記念コンサート」会場で募ったところ、一万五千円のご協力をいただき、一月十日(火)に倉吉市災害対策本部宛送金しました。ご協力ありがとうございました。

清瀬市まちづくり応援寄付金

設立五周年を記念し「清瀬市まちづくり応援寄付金」に金二万円を寄付いたしました。

第十四回多摩支部定時総会のご案内

- 日時 平成二十九年六月十八日(日)
- 場所 立川グラントホテル
- 懇親会費 六千円
- 案内状 校友会本部から別途送付されます。

清瀬地域支部の情報は

一、会報(MEET NEWS)

年二〜三回発行、会員に配布します。

二、校友会多摩支部ホームページ

<http://www.meiji-tama.net/kiyose-top.html>

多摩支部・各地域支部の情報掲載。地域支部の活動がわかります。

三、ブログ(紫紺ネット)

http://blog.goo.ne.jp/tuyosii1940_001

「紫紺句会」ほか各種イベント最新情報を掲載、ブログ人気番付は常に上位にランクです。

四、清瀬紫紺ネットメール

会員間の連絡手段として利用されています。参加希望者はメールアドレスをお知らせください。

編集後記

◎今号から号外を発行号に加えることとしました。

◎新企画第一弾、女性会員の投稿を前号から登場、今号は「紫紺俳句」で、指導頂いている大山恭子会員(俳号細見道子)の「俳句ノススメ」と「清瀬の自然を守る会」で活躍の福島良子様(福島会員夫人)からアイランドオーロラ旅行記とスナップ写真です。

◎新企画第二弾、市内の各種サークルで活躍する会員の活動紹介。今回は丸山会員から「ルートリーククラブあけぼの」を紹介して頂きました。

◎新企画第三弾、「チャレンジ」は頭の体操。詰将棋を清瀬市将棋愛好会の福島会員に出題して頂きました。

海鮮居酒屋
はなの舞

清瀬南口店

ご宴会は50名様まで
お受けいたします

清瀬駅南口 徒歩1分

清瀬市松山1-11-12

清瀬駅前ビル2F

Tel.042-496-0253

営業時間 16:00～翌3:00

日本料理 魚久

お祝い宴席ほか各種宴会を
ご用意しております

清瀬駅南口 徒歩1分

清瀬市松山1-9-4

Tel.050-5788-8323

営業時間 平日11:30～14:00

16:30～22:00

土日11:30～22:00

定休日 月曜日

そば処 玉川

そば・うどん・丼もの

配達いたします

宴会承ります

(忘年会・新年会・食事会等)

そば・うどんは自家製麺です
揚げたて天ぷらの美味しい店

営業時間 11:00～20:30

定休日 水曜日

住所 清瀬市上清戸2-6-28
(郷土博物館となり)

Tel. 042-493-3890

新会員募集中!

一緒に校友会活動をしましょう!

現在登録会員数
年会費

八十三名
二千元



POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 マイテック

粕谷彌太郎 (S28政経)

本店

〒204-0022 清瀬市松山1-27-1

Tel.042-492-0611 Fax 042-495-8357

本社事務所

〒113-0033 文京区本郷2-40-7

YG30ビル 6F

Tel. 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763

URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

あなたの街の
村越自転車店

〒204-0022

東京都清瀬市松山2-3-3

Tel.042-491-0349

村越 勝重(S50工)

清瀬駅

